

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和7年3月14日

公表: 令和7年3月21日

事業所名 サンたなお放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		1	利用児童の特性に合わせた療育を目標にし、児童ひとり一人の困っている原因を突き止め、解決・緩和するための課題を考え、対処療法を事業所みんなで実施できるように検討している。
	2	職員の配置数は適切である	7	1		職員の欠員がでないよう退職職員の補充をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1		車いすを利用している方でも入りやすいように、玄関がスロープになっており、段差がないようにしています。また、常に職員と話し合い備品(家具・おもちゃ等)の配置を児童が安全に使えるよう配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2		1か月に1回は全体会議で話し合い、随時問題があれば朝の朝礼で話し合っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	3		保護者の意向を全体会議で話し合い、保護者の意向をできるだけ沿えるように職員全体で検討している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1		HUGシステムやHPを利用し、保護者に公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	7		第三者委員会は設置していますが、実際に評価を受けるまでにはいたっていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1		職員が研修に参加し、研修参加した職員が伝達講習をしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		HUGシステムを利用して保護者からの情報をリアルタイムで収集してアセスメントしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2		アセスメントは行っていますが、ツールをうまく活用できていないかもしれないと感じています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2		利用児童の個性、発達、特性に合わせて職員全体で話し合っ て決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2		利用児童が少しずつ、変化、発達する中で話し合っ て決めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2		休日、長期休暇は時間があるため平日できない外出、工作、調理、お菓子作り等を実施に向けて話し合いを工夫している。 夏祭り、クリスマス会の保護者を交えた活動も工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		個別指導は宿題、学習、絵カードを中心に。集団活動は自由参加にしているが少しでも興味がある仕草がある時は誘導して参加を促して全員参加を目指している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2		朝の朝礼で出席児童、支援内容、役割分担を確認している。 パート職員へは出勤時に支援内容、役割分担を伝達、確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2		その日にHUGにて利用児童の支援記録を職員間で共有して支援内容を振り返っていて、反省点があれば改善していく。すぐに伝達しないといけない場合は職員のグループラインで伝達する。原則パート職員には次の出勤日に伝達している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2		HUGシステムにおいて利用日に活動記録を公表している。保護者から連絡があれば対応して職員で検証して改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2		最長で半年に1回モニタリングを保護者家族、相談員、学校の先生等の関係者から情報提供し、朝礼で職員間で話し合い、モニタリングを作成している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	2	1	5領域を踏まえた個別支援計画の作成や支援計画に基づいた方法を活用している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	学校の先生、相談員、関係事業所、保護者家族と必要に応じて担当者会議に参加して事業所の職員に伝達している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		月ごとに各学校、保護者より予定表をいただき、HUGにて変更があれば提示してもらっている。急であれば携帯の電話、メールで家族と連絡を取り合い対応している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		8	現在、医療的なケアが必要なお子様の利用はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2	保育園、幼稚園、相談員、関係事業所より情報提供いただいている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	卒業後のB型事業所へ情報提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	就学前の児童の受け入れに児童発達支援センターから助言をいただいている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	2	夏祭り、クリスマス会は利用児童と家族(障害のない兄弟)の参加により活動している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	2	定期的に地域自立支援会議に参加している。研修にも参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	保護者家族に利用日にHUGにて活動記録を公表し、子どもの発達や課題の共通理解ができやすい工夫をしている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	6	ペアレント・トレーニングについても今後勉強を努め、保護者向けに実施できるようにしていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時に説明している。支援内容はHUGの毎回利用記録にて確認し、大きくはモニタリング、個別支援計画提示の際、説明している。毎月利用者負担は請求書にて確認している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	保護者から随時、HUG、携帯メール、電話等で対応し必要があれば訪問、来訪していただき相談に乗り、事業所の職員と検討したり、相談員の方や学校の先生方にも相談し、助言をいただき、問題解決に向けて対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	2	夏祭り、クリスマス会は保護者家族と一緒に参加の機会があり、その時に保護者同士の交流を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		随時、電話、携帯メールで対応して職員と話し合い迅速に対応して改善していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2	HUGにて行事予定、連絡体制を随時発信している。
	35	個人情報に十分注意している	7	1	カルテは鍵付き書庫の保管している。全職員に秘密情報取り扱い契約書を交わして個人情報に関して対応している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	HUGシステムを利用して保護者が随時意思疎通、情報伝達できるよう努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2	夏祭りは地域住民も交えて参加していただき交流している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2	特に暴風雨警報の予報時、事前にHUGIにて連絡し対応している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	年に2回避難訓練をしている。地域の防災訓練にも参加している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	虐待防止研修に参加し、職員に伝達している。法人で虐待防止委員会を年3会開催し、職員にも会議内容を伝達し虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2	契約時に身体拘束をやむを得ず実施する場合の説明をしている。身体拘束をやむを得ず実施する場合、職員間で確認していく。子どもや保護者に事前に説明しサービス計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	アレルギーが起こった時、エビペン使用(当事業所に2名看護師がいる)を保護者が同意している。昼食はお弁当を持参して他の児童と離れて食べる配慮をしている。おやつを提供する際はアレルギーのあるものを食べないように配慮している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	作成された書面は今後事故が起こらないように全職員が閲覧し、事故防止に努めている。